



コンペ終了後は、協働企画に関心を持った企業関係者と発表者が名刺を交換したり、具体的に相談を始める光景も



最優秀賞に輝いたのは、ソロモン諸島で地域開発を支援する(特活)エービーエスディー。「研修は実践的で、組織の基盤を強化するきっかけにもなった」と下久禰愛さん(中央)。今年6月に始まった08年度の研修を受講中の同団体の白藤謙一さん(右)、日本フィランソピー協会・高橋陽子理事長と

この日に向けて練習を重ねてきた発表者たち。本番では単なる「活動紹介と支援のお願い」ではなく、企業にとっての連携の意義やメリットを明確に打ち出した提案が目立ち、企業関係者からも真剣な表情で聞き入っていた。そして投票の結果、「エコ製品作りや環境保全などにおいて、企業

企業とNGOを結び 国際協力を日本の文化に

今、「企業の社会的責任」(CSR)に基づいて、多くの企業が社会貢献活動を重視し、途上国の貧困削減や環境保全に取り組み事例も増えている。その際、彼らのパートナーとなるのが草の根で活動し現場をよく知るNGOだ。企業側は資金や物品を支援して間接的に国際協力を推進し、NGOにとっては、企業のサポートを得ることで活動の質の向上や健全な組織運営が期待できる。今回のコンペには「提案に興味を持った企業との連携につながれば」という狙いがあった。

また、その後NGOが企業から協働企画に参加したいと相談を受け、準備を進めている事例が7件もあるそうだ。地球ひろばの山崎唯司・市民参加協力

の持つ技術を自らの活動と組み合わせ、両者が主体的に行動する協働ツールを提案した(特活)エービーエスディー(APS D)が見事最優秀賞に。「支援がどう役立っているのか分かりづらい」「企業の強み・特徴を生かすにくい」といった、従来の協働事例で問題となっていた点を挙げ、それらを踏まえた企画提案が、企業側の関心を引き付けた。NGOと企業を結び貴重な場となった今回のイベント。終了後には、「NGOを通じて国際協力がより身近に感じられるようになった」(大手製造企業CSR担当者)、「企業がNGOに求める視点を知ることができた」(NGO発表者)などの感想が聞かれた。日本フィランソピー協会の加勢川佐記子事務局長も「『継続して開催すべき』との企業の声がたくさん寄せられた。CSRを考える企業の国際協力への関心も高まったと思う」と成果を述べる。

地球ひろばのNGO人材育成研修



合宿形式で行われた研修の導入ワークショップ。参加者は、研修の出発点とゴールを確認する作業に取り組み、発表し合う

若手NGOスタッフの人材育成を通じ団体の組織強化を図る、地球ひろばの「組織力アップ!NGO人材育成研修」は「プロジェクトマネジメントコース」と「組織マネジメントコース」に分かれている。研修前半に各コース(約2カ月間)を受講した後、それぞれのNGOが取り組むべき行動計画を作り、コースリーダーの指導のもとで実践する参加型の研修だ。さらに希望者を対象に、研修の成果を生かして企業や市民に活動をアピールするための企画も行う。問い合わせは、地球ひろばNGO連携課(TEL:03-3400-9934)まで。

アドバイザーは「さまざまなアクターを巻き込み、国際協力を日本の文化として定着させたい」と言う。これからの国際協力に欠かせない企業やNGOの連携の広がり、より大きなうねりとなることを期待したい。



企業のCSR担当者らに、10分間で協働企画を発表するNGOスタッフ。参加したのは、シェア=国際保健協力市民の会、ACE、地球市民ACTかながわ、ソムニード、エービーエスディー、難民を助ける会の6団体

PLAYERS

国際協力の担い手たち



真剣な表情で審査する企業のCSR担当者たち。協働企画の内容に加え、話し方や発表資料の見やすさなども審査の対象となった

NGOと企業の協働を広げよう

「国際協力の分野で活動するNGOが、企業に向けて協働企画を提案する」——そんな趣旨のもと、NGOによる企画コンペ(競争)がJICA地球ひろばで開催され、25の企業が参加した。

研修の成果を生かし 企業に協働企画を提案

9月18日、満員となったJICA地球ひろばの会議室には独特の緊張感が漂っていた。この日、企業の社会貢献活動を推進する(社)日本フィランソピー協会と地球ひろばの共催で、「国際協力NGOによるプレゼンテーション・コンペ」が開かれた。

国際協力にかかわる市民団体の情報発信や交流、研修の場を提供する地球ひろばは、国際協力NGOの若手スタッフを対象に、NGOの組織力向上と人材の育成を目指す研修を2007年から実施している。広報、支援者拡大、資金調達などの組織運営や、開発途上国での調査・分析手法、プロジェクトの運営について学ぶもので、07年度は20団体に参加。その中から立候補した6つのNGOが「研修で学んだことを実践するため、企業に協働企画を提案したい」と、プレゼンテーション(発表)のスキルと協働企画の内容において最も優れた団体を投票で選ぶ今回のコンペを発表した。会員に多くの企業を持つ日本フィランソ